

高萩市再生可能エネルギービジョン【概要版】

ビジョン策定の背景・目的

本市は、令和2年7月に、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」の共同表明を行い、令和3年4月に改訂した第2次高萩市環境基本計画において、カーボンニュートラルを目指すことをリーディングプロジェクトに設定しました。

今回、ゼロカーボンシティの実現を目指すうえで重要な位置づけとなる、再生可能エネルギーの活用について、本市が有する再生可能エネルギーのポテンシャル調査を行い、実現可能な再生可能エネルギーを抽出し、エネルギー転換を段階的、持続的に進めていくための再生可能エネルギービジョンを策定することとしました。

ビジョンの対象期間

本ビジョンでは、令和4年度から令和13年度までの10年間を対象期間とします。また、今後蓄積される最新の科学的知見や区域内の情報を基に、必要に応じて本ビジョンの見直しを行います。

アンケート調査結果

アンケートは、市民・事業所・中学生を対象として実施しました。

調査結果として、日常生活に浸透しているものを中心に再生可能エネルギーについて、十分な認知がされていることが分かりました。

また、山間部を開発しての太陽光パネルの設置ではなく、公共施設や住宅の屋根を利用した太陽光発電などの具体的な意見が多くみられました。

公共施設へ再生可能エネルギーを導入し、脱炭素を目指すと同時に、災害時の防災拠点としての役割も求められていることが分かりました。

本市の再生可能エネルギーポテンシャル

再生可能エネルギーのポテンシャル調査から考えられる、再生可能エネルギーの種類ごとの導入ポテンシャルを以下に示します。

種別	導入ポテンシャル
太陽光	市街地の建物に太陽光発電、太陽熱利用。 農地や遊休地でのソーラーシェアリングによる発電。
風力	山間部にポテンシャルエリアが点在している。
中小水力	山間部の河川にポテンシャルが見られる。
地中熱	市街地の建物に地中熱利用設備を導入することが考えられる。
バイオマス	山間部にある畜産業からの廃棄物リサイクルによるメタン発酵ガスの利用や豊かな森林資源の活用が考えられる。森林資源活用は既に進んでおり、再エネとしての活用については国有林や自然公園などの森林経営から排出される間伐材等のリサイクルになる。
その他	廃棄物焼却施設から発生する余熱を利用していく。



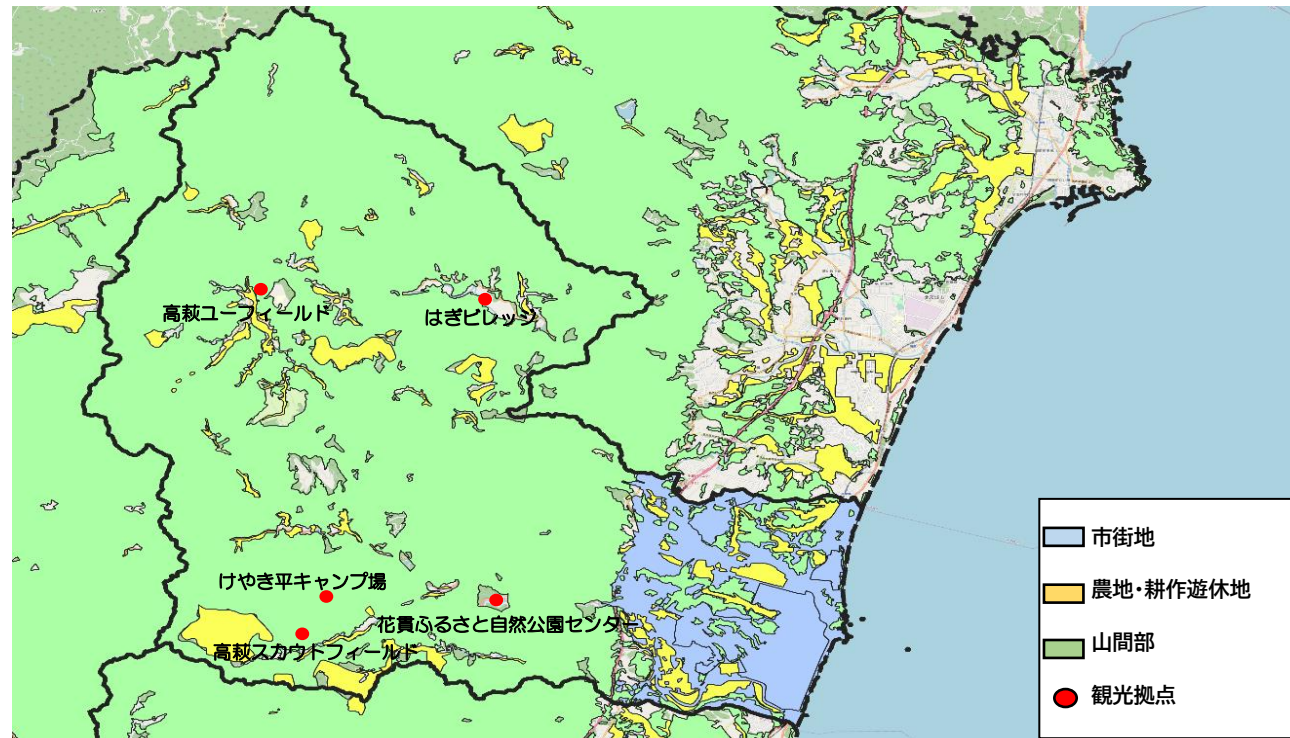
グリーントウンてつな住宅内
太陽光発電の利用



大北川水系
中小水力のポテンシャル

地域特性を踏まえたビジョンの方向性

市全体の土地利用と、本市の再生可能エネルギー導入における可能性についてゾーニングした結果を以下に示しました。



種別	導入可能とされた再生可能エネルギー
1.市街地	高萩駅とその周辺の建築物に太陽光発電と蓄電池
	スマートモビリティの活用による来訪者の増加促進
	公共施設の太陽光発電拡張と蓄電池の導入
	ゼロネットエネルギーハウス(ZEH)・ビル(ZEB)
2.農地・遊休地	ソーラーシェアリング
	新たな農業経営の波及
3.山間部	複合型バイオマス発電
	中小水力発電
	風力発電
4.観光拠点	自立型再生可能エネルギーの導入
	スマートモビリティ波及による観光促進

再生可能エネルギーの導入ビジョン

市民からのアンケート結果、再生可能エネルギーのポテンシャル調査を踏まえ、4つのエリアが目指すべき将来像と、今後のビジョンの方向性をクローズアップし、参考となる具体例を示しました。

①市街地 de にぎわい まちづくり創出		②農地や遊休地 de 持続可能な地産地消	
ビジョンの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 高萩駅とその周辺 →太陽光発電と蓄電システムを導入し、災害時に備える。 地域循環 SDGs を目指す。 公共施設や工場等 →ZEB・ZEH を推進。 	ビジョンの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 農地や耕作遊休地 →再生可能エネルギーの導入を促進。 地域循環 SDGs を目指す。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺の再開発の推進。 ZEB、ZEH 化の実現によるゼロカーボンシティの構築。 	期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能で永続的な営農体制の確立。 食料の自給率向上。 付加価値の高い安心な作物を地産地消。
③山間部 de 未利用資源の利活用		④観光拠点 de にぎわい再生	
ビジョンの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然環境・生物多様性の保全。 未利用資源(間伐材・家畜糞尿等)活用による環境保全。 既設水力発電所の強靱化と地域送電網への取り込み。 将来の技術革新を利用した風力発電。 	ビジョンの方向性	<ul style="list-style-type: none"> 観光拠点 →再生可能エネルギーを使い快適性を向上。 地域循環 SDGs を目指す。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> 畜産業や林業、森林保全の経営安定化。 廃棄物の減量化。 液肥や堆肥利用による農業支援。 気候変動に影響されない再生エネの生産。 	期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> 集客による経済の相乗効果。 四季を通じリピート率向上。 魅力度アップによる他地域からの移住。 自然と再生エネの環境教育施設の設置。



ビジョンの推進に向けて

ゼロカーボンシティ宣言に基づく脱炭素を基底にした自立分散型地域社会の実現を目指します。また、このビジョンを推進するにあたり市民・事業者・行政の協働が不可欠であり、国や県、周辺自治体とも連携し、地域の抱える様々な問題の同時解決を図りつつ推進していきます。